多摩材中心に全量ムク

過去の異常事態も安定供給

マイホームパートナー

構造材に全量東京・多摩産のムク材を用いるマイホームパートナー（東京都日野市、林和平社長）では、ウッドショックによる木材調達への影響が軽微で済んでいる。創業して21年、一貫してムクの国産材のみを扱ってきた。床や腰壁、天井などの内装材も、多摩材を中心に杉やサワラ、キリなどを採用している。宮城県産の床材も扱い、燻煙乾燥による独特の香りが人気を呼んでいる。

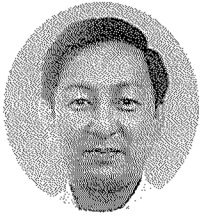
長年取引する各製材業者との関係性から、「木材価格の上昇を抑制してくれているのではないか」（林社長）と見ている。プレカット材の納材も、目立った遅れは出ていない。

「過去に一般市場が大規模な資材供給難に陥った際も、地域材の地産地消により影響はなかった」（同）と述懐する。同社が長年地域材を用いることで、地場の木材事業者との信頼関係を醸成し、異常事態の際の安定供給につながっている。

ウッドショックで国産材が注目されたことで、木材の観点からの問い合わせも増えている。

同社はムク材にこだわってきた。創業当時は、ムク材を中心に自然素材をうたう住宅会社は珍しかった。だが昨今は、ムク比率が少しであっても、同様の宣伝文句を表示する住宅会社が乱立する。普通の顧客はムクか集成材かなど区別できず、情報が多すぎることも手伝い、価格など表面的な部分で不利な場面も少なくない。ただ同社は20年にわたり地場材を扱い、ムク材の性質も熟知している。

「ムク材が見える、刻みができる」（同）腕が確かな大工3組を中心に施工し、「本物の家造りを嘘なく続けていると自信を持っている」と林社長は堂々と語る。



林　社長